

「温暖化適応策も不可欠」



温暖化の健康への影響について講演する橋爪教授

長崎市、長崎ブリックホール

気候変動で長大教授ら解説

長崎・環境省がシンポ

気候変動に関するシンポジウムが23日、長崎市茂里町の長崎ブリックホールで開かれた。2013、14年に国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が公表した報告書を踏まえ、IPCC中心メンバーや長崎大熱帯医学研究所の教授が、最新の気候変動の状況や今後の影響について語った。

約7年ぶりに公表された報告書の内容を広く知って

もらおうと、環境省が昨年12月から全国8カ所で開いている約70人が聴講した。IPCC中心メンバーのニリウオロローナ・ラホリジャオ氏は、このままでは世界の平均気温が今世紀末に最大4・8度上昇するといった報告書の概要を説明。気温上昇を2度未満にするため低炭素・脱炭素エネルギーの活用や、二酸化炭素（CO₂）吸収源の改善の必要性を強調。「われわれ

れの選択が将来異なった結果を導く」と訴えた。

熱研の橋爪真弘教授は、温暖化の健康への影響について講演。2030～50年には温暖化が原因で毎年世界で25万人が死亡するという世界保健機関（WHO）の推計を紹介。日本でも真夏日や熱帯夜が増えるとして「温暖化への適応策も不可欠だ」と述べた。（田代菜津美）